

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: R7年 2月 日

無回答あり

事業所名 郡上市南部子ども発達支援センターひまわり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	5	・4部屋しか使えないので利用人数の多い時や、更新、モニタリングのある際には児の状態に合わせた部屋を選択することが難しい。療育内容によっては保健センターの部屋を借りることもある。 ・長期休暇時の放デイがある時には、スペースの確保が難しい。保健センターに協力してもらいスペースの確保に努めている。 ・広いホールがいつも使えないため、活動内容が限定される。 ・部屋が足りないことがある。 ・ホールが使えないことがある。	・利用定員に合った指導室の確保に努める。 ・必要に応じて他の施設を利用する。 ・ホール使用の必要性を継続して訴えていく。
	2	職員の配置数は適切であるか	2	5	・様々な業務があり、職員の配置数は不十分。 ・必要に応じて登録保育士の協力を得ながら必要な職員数の確保を行っている。職員間での協力体制を強化していく必要がある。 ・もう少し多いといい。	・事務的業務の簡素化を図る。 ・事務分掌を特定の人に固定化せず(偏らせず)、必要に応じて見直す。 ・誰もが事業全体を自分の仕事という意識を持つ。意識改革をする。
	3	療育指導室は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4	3	・サンデッキの撤去により、療育指導室から直接戸外に出ることが困難になっているので、早急にステップ等を準備し安全に出ることができるようにする必要がある。	・安全に業務を遂行するために必要なものについては、即時購入する。
	4	療育指導室は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっているか。	4	3	・運動あそびのできる部屋が少なく、活動の内容が限られることがある。 ・清潔、安全な環境にはなっているが、高学年のお子さんが満足できる活動を提供できる環境や空間としては不十分。 ・毎日の清掃や消毒は行うことができているが、丁寧な清掃や消毒を行うことは、他の業務に追われ時間的に難しい状況にある。	・安全や衛生面での対策は引き続き行なう。 ・ホール使用の必要性を継続して訴えていく。
業務改善	5	必要に応じて子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	5	2	・利用人数が多い場合には利用できる部屋が限られているので難しい。	・子どもの状態を見極めながらグループやペアで行うなどの工夫をしていく。
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	3	4	・業務が固定化しがちで、どの職員も幅広くいろいろな業務に携わっているわけではないので、業務内容など理解したうえで広く職員がPDCAサイクルに加わるのは難しい。	・事務分掌を特定の人に固定化せず(偏らせず)、必要に応じて見直す。 ・職員の参画意識を高めていく。
	7	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	・毎年、事業所の評価を行っており、保護者の意向を把握することはできている。	・ホームページ上にも評価結果を公表していく。
	8	職員の意見等を把握する機会等を設けており、その内容を業務改善につなげているか	6	1	・職員会を通じて意見交流をし把握できる機会はある。 ・職員会等でそれぞれの職員の意見等を把握することはできている。その意見を踏まえ、職員間で話し合いを行い改善につなげている。	・責任者会・職員会等で意見を伝えられる場の確保を継続していく。
	9	事業所職員向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	5	1	・保護者には紙面での公表を行い、事業所内にも掲示をしている。広く公表を行うために、今後は市のホームページでの公表を行いたい。	・市のホームページでの公表を行う。
	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5	2		・第三者評価体制の整備を検討する。 ・発達支援センターの業務や療育について知識や経験のある人に依頼していく。
	11	職員の資質の向上を図るために研修の機会が確保されているか	6	1	・研修で学んできたことを日々の療育にどのように活かしているのが課題。 ・職員研修を年3回行い、職員の資質向上に努めている。研修会の報告を職員会で行い、資料を回覧することで、参加した職員以外の職員の学びの機会としている。	・経験や職階に応じた外部研修の参加を推進する。 ・研修内容は職員間で共有し資質向上に努める。 ・年3回程度、職員研修会を実施している。
	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで通所支援計画を作成しているか	6	1	・通所支援計画を立てる側の立場からは、分析したうえで作成しているつもりではあるが、実際の子どもさんと接することが少ないため、その計画が適切であるか不安に思う。	・児の状態像を的確に把握するように努め、関係者と連携して支援計画に反映させる。

適切な支援の提供	13	通所支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	6	1	・担当職員の方に計画の振り返りを書いてもらっているが、顔を合わせて検討をする時間を作れていないため、難しい。	・児の成長発達を鑑み、最善の支援方法や適切な関りができるよう職員間で共通理解を図る。
	14	子どもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認できているか	5	2		・発達検査を軸に必要な児については感覚プロフィール、TASPなどを用いた検査により把握する。
	15	通所支援計画には、児童発達支援及び放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援、放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	1	・「移行支援」、「地域支援・地域連携」については具体的な支援内容を設定するためには日常的な細かい支援や家族、地域への理解が必要に思う。	・地域資源について把握しておく。 ・引き継ぎ、関係機関との情報共有と相互理解による途切れのない支援に努める。
	16	通所支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	7	0	・通所支援計画は職員間で回覧はしているが、子どもに沿った支援計画でないと実施しにくい。 ・職員間で共有はされているが、計画に沿った活動がなされていない場合がある。	・児のニーズに合わせた計画を作成する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	3		・グループ活動では、指導員の役割分担を大切にしていく。 ・指導員や児発管と指導内容について交流しながら進める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0		・年齢や領域に合わせて、年間計画の見直しをする。 ・指導内容について、指導方法や関りについて共有する。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ通所支援計画を作成し、支援が行われているか	5	1	・子どもの状態によっては個別療育のみおこなっている。	・児のニーズに合わせた計画を作成し、療育を実施する。
	20	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	6	0	・毎日朝礼は行っており、それぞれの一日の動きについて確認ができているが、他事業に出かけるため全員の職員が参加できないことがある。その日に確認しておきたいこと、伝えておきたいことがある場合もあるので、なるべく全員が参加して朝礼ができるとよい。 ・できる時はしているが必ずではない。	・なるべく全職員で打ち合わせを行うことが望ましい。しかし、できない場合は、空き時間、メモなどの方法により共通理解化しておく必要がある。

関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	5	1	・職員が揃って打ち合わせをすることは、時間的に困難。職員が全員揃うことは難しいと思うが、特に改善が必要なことについては、早期に改善に向けての打ち合わせや話し合いを行う必要がある。 ・できる時はしているが必ずではない	・時間の確保や伝達手段を工夫しながら共有しておくことが必要である。
	22	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	・記録をとることは徹底されているが、記録の時間を十分に確保することが難しい。	・指導の記録は、療育後の30分の時間を使って記録と懇談を行うようにしていく。別途記録がある場合は、
	23	定期的にモニタリングを行い、通所支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	6	0		・モニタリングを行うことで、対象児に関するより多くの情報を得られ、また、見直しの是非も判断しやすい。
	24	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせず支援を行っているか	6	0		・子どもの状態に合わせ、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性、認知・行動、健康・生活、運動・感覚から必要な活動を組み合わせながら行っている。
	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1		・児発管、療育担当者等が参画している。
	26	母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	7	0		・母子保健では、健診、遊びの教室等で連携し、早期療育を促進する体制ができている。子育て支援関係部署である児童家庭課とは要支援家庭に関する支援について連携している。
	27	並行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。またその際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7	0	定期的に発達支援会議を行い、情報共有や相互理解に努めている。	・引き続き、情報共有と相互理解による途切れない支援に努める。
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6	0		・医療的ケア児コーディネーターを中心に、関係機関との連携や地域療育連携会の充実をめざす。
	29	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	6	1	・子どもにかかわる医療従事者と情報共有したり、リハビリに同席するなど連携することができている。	・医療的ケア児コーディネーターを中心に、地域の医療機関との連携体制を機能させていく。
	30	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	0	・他の事業所での研修会に参加をしたり、発達障害者支援センターの相談員から通所児や療育についてアドバイスを受けることができる機会がある。	・限られた時間ではあるが、現状に即した研修の機会を捉え(選択し)、参加していくようにする。
保護者への説明責任等	31	自立支援協議会児童部会や地域の子ども・子育て支援会議等へ積極的に参加しているか	6	1		・一部の職員に限らず、職員の参加の機会を作れるとよい。
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7	0	・送迎時の時間を使って子どもの様子を伝え合っている。	・療育後の30分の時間を有効に使うべく懇談を行う。
	33	保護者の対応力向上を図る観点から保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	5	2	・来年度、美濃市と共同で家庭支援プログラムを行う予定。	・令和7年度に美濃市と共同で研修を行う予定。
	34	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	0		・丁寧にわかりやすく説明するように努めていく。
	35	通所支援計画の作成をする際には、子どもや保護者の意思尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	7	0	・モニタリングや通所の更新の聞き取りで子どもや家族の意向を確認する機会を設けている。	・子どもや保護者の意思を尊重しながら最善の支援方法や適切な関わりができるよう意向を確認していく。
	36	児童発達支援、放課後等デイサービスガイドラインに基づき作成された「通所支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から通所支援計画の同意を得ているか	7	0		・支援内容を具体的に説明し、同意を得られるように努める。
	37	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7	0		・相談に迅速に対応し保護者の話を傾聴しながら共感的に支援ができるよう努める。

38	保護者会の活動の支援や保護者同士の連携を支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	2	5	・今年度保護者会についてのアンケートを実施した。アンケート結果を踏まえて、今後の保護者会活動の支援について検討していきたい。	・アンケート結果を踏まえてできる活動を支援していく。
39	子どもや保護者からの相談や申し入れ等、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0		・心配や不安があった場合の相談について随時受け付けている旨を周知していく。 ・迅速に対応するよう努める。
40	定期的に通信等を発行し、活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7	0		・毎月の通信にて活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等を発信している。 ・緊急の連絡はすぐ一にて行っている。

非常時等の対応	41	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7	0		・注意しながら取り扱っているところではあるが、今一度個人情報の取り扱いについて確認する。
	42	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	0		・言語以外にも身振り手振り、写真、絵カード等も用いながらコミュニケーションのとり方を工夫していく。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	1	6	・隣接している事業所と一緒に避難訓練を行っている。隣接している事業所に通所されている方が制作されたものを壁面飾りとして掲示してもらっている。 ・行事がない。	・地域を把握し、できる活動があれば一緒に行うことを検討していく。
	44	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか	7	0		・職員会等でマニュアルを確認する。 ・通所開始時には保護者にも提示し、周知する。 ・非常時を想定した訓練も計画する。
	45	業務継続計画を策定するとともに非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		・業務継続計画は、令和7年度から施行予定。 ・通所児全員が、各児に合った訓練を経験できるとよい。 ・自然災害に備えた訓練も計画していく。
	46	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	7	0		・てんかん発作時の対応、アナフィラキシーショック等の対応について研修を受ける。
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	6	1		・指示書がある場合は適切に対応できるように備える。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分にされた中で支援が行われているか	6	1		・安全計画は令和7年4月に保護者にも周知し、計画に沿って訓練等を行っていく。
	49	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有されているか	4	3	・ヒヤリハットについては、毎月の職員会やその都度、職員で共有し改善策を検討しているが、事例集は未作成。 ・事例集は作成していないが、毎月の職員会で確認をし、改善方法を検討している。	・ヒヤリハット事例集の作成は令和7年度の課題としていく。 ・引き続き、職員会でヒヤリハットについて報告、確認、共有していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等の連携が図れるよう安全計画に基づく取り組み内容について家族等へ周知しているか	6	1		・第3緊急連絡先の把握、個別の避難方法について職員間では共有している。 ・安全計画について令和7年4月に保護者に公表予定。
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	0	・虐待防止研修会を実施した。毎月、虐待防止チェックリストを行い振り返りを行っている。	・引き続きチェックリストを活用し、虐待防止の意識付けを行なう。 ・年1回、権利擁護についての研修会を開催する。
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載しているか	5	2	・組織的に決定し、事前の説明は行っているが、通所支援計画への記載は行えていないので、今後記載を行うようにする。	・鍵をかけるなど、安全確保上やむを得ず身体拘束を行なうことについて、保護者に説明し了解を得る。 ・支援計画にも記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。